

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0270101371		
法人名	社会福祉法人和幸園		
事業所名	グループホーム千代の郷		
所在地 (電話番号)	〒039-3504 青森県青森市矢田字下野尻48番4 (電話) 017-737-0810		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年12月9日	評価確定日	平成22年1月25日

【情報提供票より】(平成 21年 11月 20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 3月 20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

### (4) 利用者の概要( 11月 20日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	名	要介護4	6 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	87.3 歳	最低	80 歳
		最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	石木医院、浅虫温泉病院、ミナトヤ歯科医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>グループホームは同法人の福祉施設が隣接する敷地内にあり、周囲は民家に囲まれ、のどかで静かな環境の中、自然と地域との触れ合いを持つことができている。職員は理念を良く理解し、利用者本位の支援をしている。又、管理者を始め職員は認知症の理解に努め、それを実践しており和やかで、家庭的なグループホームである。</p>
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>特に、今回は課題となる点はなかったが、利用者の状況に合わせながら課題や、目標を持って接遇に取り組んだり、他事業所と勉強会を継続的に開催しており、積極的に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は評価の意義を良く理解しており、一連の過程を職員間で検討し、課題を見つけだし、取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2か月に1回定期的に開催しており、会議が定着している。又、評価結果や、生活状況、行事の様子などをビデオで流したり、意見が出しやすいような会議の設定をしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>オンブズマン制度を活用し、年8回不定期に訪問し利用者の希望や、意見を聞きだす機会が作られている。又、家族の面会時に話す機会を持ったり、遠方にいる家族には、メール等で近況報告をしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>認知症の普及活動では、地域のグループホームの研修会で講師として活動したり、中心となり勉強会を開催している。又、地域の方と触れ合えるように、散歩を通して挨拶をする関係の構築や、町内の行事に積極的に参加している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で一人ひとりの尊厳が守られるよう、地域密着型の理念として職員全員で作り上げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念が掲示されている。申し送り時に復唱したり、月に1度のミーティングの場で話されている。課題にあたった場合は、理念に振り返り対応されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地区の夏祭りに利用者と共に参加している。ボランティアの方に訪問してもらい、野菜畑の整備をしてもらったり、近隣の方が参加している大正琴サークルが、定期的に訪問している。その際には一緒にお茶を飲みながら会話し、交流の機会がもてるよう努めている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者、職員共に制度について理解しており、具体的な改善点があった場合はその課題を実践する努力をしている。内部だけでは困難な場合には、上司に相談しながら対応している。又、内容については運営推進会議の場で報告され、改善に取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者、家族、地区の代表、地域包括支援センター職員、市の職員、オンブズマン、ホームの職員が参加して、ホームの状況の報告をはじめ、活動内容、評価事業の報告などがされており、課題などについて話し合われている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に参加してもらった場合には意見など出してもらっているが、なかなか出席は困難な場合が多いため、普段は電話やメールなどで相談し、課題や相談事についての連絡体制が整っている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度の理解については地域包括支援センターの協力等を得て、研修の機会を作り、職員が学ぶ機会を持っている。家族にも制度について説明されている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員は日々のケアの中で防止に努め、管理者を中心として虐待がないか、確認しながら対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な時間をかけて説明され、了承を得ている。又、重度化した場合や、看取りの対応などについても事業所としての方針を家族に説明されている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭面については、小遣い帳を作って面会時に報告されている。少し多額な出金が予想される場合や、生活の様子などについてもメールなどを利用して伺いを立てている。お便りでの定期的な報告もされている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に声掛けをして意見を出してもらうようにしたり、オンブズマン制度の活用で定期的な訪問により、意見の出せる機会を作り対応されている。苦情の受付や対応については法人が中心となり、適切に対応されている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内での異動は極力少なくしている。異動があった場合には、利用者の声に応じて異動先の事業所に出向き、職員と面会しながら、関係の継続と利用者のダメージが最低限に抑えられるよう対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修については積極的に参加できるような体制があり、職員の意見や希望も聞きながら年間のおおよその計画を作って対応している。しかし、参加した職員が報告書で提出する以外に伝達できる機会が少ない。</p>		<p>外部研修に参加した職員が他の職員にも伝達できる機会として、内部研修の時間をつくり相互に啓発できるような体制が望まれる。</p>
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>圏域のグループホームで勉強会のネットワークが作られており、地域包括支援センターも参加し、事例検討したり、基礎知識を学んだりする機会が定期的に行われている。管理者が中心となり積極的に活動されている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に自宅を訪問し、入居時の相談をしている。また、利用者がスムーズに入居できるように事前に日帰りでも過ごしてもらうなど、精神状態などを考慮しながら対応している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は自然に利用者と過ごしており、お互いが協働しながら静かに生活を送れるよう配慮している。又、職員は昔の知恵や言葉を聞いたりして利用者から学ぶことも多い。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>					
<p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
17	30	<p>思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式で認知症のケアを実践するためのアセスメントがされており、本人の意向の把握に努めている。しかし、介護計画では記されているものの、アセスメントが初回の記録のみで、年月の経過や意向の変化により見直しが行われていないため記録が不十分である。</p>		<p>介護計画作成の際にはアセスメント表も見直すようにし、必要な場合は訂正し、記録することが望まれる。</p>
<p><b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の意向が当事者の言葉で記されており、職員間でも検討しながら、実際の介護内容についても細かく計画が立てられている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>最低3か月に1度は見直しを行い、更新されている。その都度家族に郵送して、確認してもらい作成している。見直し以前に変化などがあった場合にはその都度対応している。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>年間計画以外の外出や買い物など、利用者の希望やその日の状況に応じて臨機応変に対応されている。時々昼食をレストランでいただくなど楽しめている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に、本人・家族と相談し今後の主治医について話し合われており、希望に応じて以前からの主治医に診てもらっている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>あらかじめ説明されており、実際に状態が変わった時にも再度話をして、併設の特別養護老人ホームに入居するなどの対応がされている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は理解しており、介護の場面でもさりげない対応がされている。記録等の個人情報は整理整頓されて保管されている。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のその日、その時したいことを尊重しながら、利用者のペースに合わせた暮らしの支援が行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人ひとりの意欲が引き出せるように調理の下ごしらえや食事の準備、片付けなどが自然にできるように支援されている。その際にはその日の精神的な症状に配慮しながら、無理にならないように支援されている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>特に曜日を決めていないが、最低でも週に2回から3回は入浴できるように支援されている。また、車椅子の利用者も安心して入浴ができるように特別浴槽もあり、職員の介護負担の軽減になると共に利用者にも好評である。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>調理の下ごしらえ等、食事に関することや、掃除や洗濯ものをたたむなどの役割が自然と日課になるように支援されている。又、仏壇にご飯をお供えするなど、昔からの習慣が継続できるよう支援されている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>希望に応じてドライブに出かけたり、買い物をしたり、事業所の周辺を散歩したりして気分転換の機会になるように支援されている。</p>		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の講習会で勉強する機会があり、身体拘束はされていないが、職員全員が介護保険指定基準を正しく理解できるよう、マニュアル化するなどはされていない。		職員全員が正しく理解できたり、確認することが容易にできるよう、マニュアルの作成を含めて検討することが望まれる。
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が理解しており、夜間以外は施錠されていない。利用者も時々外の新鮮な空気を吸うために玄関に出ている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、夜間を想定した訓練も含めて行われている。緊急時には併設の特別養護老人ホームや、ケアハウスとの連携ができるよう体制が整えられている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設のメニューを参考にしながら独自に作られており、食材の発注から調理まで行われ、一人ひとりの摂取の状態がわかるように記録されている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル化されており、作成日時も記載し、実行されている。インフルエンザの対応についても法人全体で明確な取り決めがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間や廊下など随所にベンチなどが置かれて、思い思いに過ごすことができる。また、飾りも昔馴染みのものが置かれて愛着がある。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使い慣れた家具や仏壇などが持ち込まれ、自分らしい部屋となっている。また、利用者の好みや身体状況により、畳とフロアが選択できるようになっている。各部屋にはトイレもある。</p>		

 は、重点項目。